

ディリー・ジーザス・ニュース #312

金曜日…苦悩と贖罪の日

イエスの三段階のローマ裁判

ユダは自殺し、彼の名で土地が買われる

マタイ27.3-10 (並行テキスト : 使徒行伝1.18-19)

=====

3^{MT}イエスを裏切ったユダは、イエスが有罪とされたのを見て後悔の念に駆られ、銀貨三十枚を祭司長たち、長老たちに返しました。

4彼は言った。」私は罪を犯しました。罪のない者の血を裏切りました。」

」それは我々と何の関係があるんだ？」と彼らは答えた。」それは君たちの責任だ。」

5そこでユダは金を神殿に投げ入れて出て行き、それから首を吊って自殺した。A 彼は頭から落ち、体は裂けて内臓が全部飛び出してしまった。

6 祭司長たちは銀貨を拾い上げて言った。」これは血の代価だから、金庫に入れるのは律法に反する。」 7彼らはその金で陶器師の畠を買い、外国人の墓地にしようと決めた。^Aこうしてユダは、悪事の報酬で畠を買った。

8エルサレムのすべての人々はこのことを聞いたので、その畠を彼らの言語で」アケルダマ、「すなわち」血の畠」と名付けた。それで今日までその畠は「血の畠」と呼ばれている。

9こうして預言者エレミヤによって言われたことは成就した。

」彼らはイスラエルの人々が彼に課した代価である銀貨三十枚を受け取った。 (10) そして彼らは主がわたしに命じられたとおり、それを使って陶器師。の畠を買ったのです」 (ゼカリヤ書11章12-13節 ; エレミヤ書18章2節、11節 ; 32章6-9節)

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム
タイムライン	4月上旬 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第8段階：受難週
	E. 金曜日：苦悩と贖罪の日
	イエスの三段階のローマ裁判
タイトル	イエスは自殺し、その名で畠が買われる

今日の朗読では、イエスの裁判と磔刑の物語が少しだけ脇道に逸れ、ユダの自殺とその後の出来事が描かれています。これは、二つの並行テキストを融合させることの利点を示す、もう一つの素晴らしい例です。二つの記述の間に見られる矛盾が、シームレスに解決されているからです。

マタイは、ローマ裁判のこの時期にユダの自殺を記録しました。なぜなら、それがイエスの悲しい死のまさにその時期だったからです。ユダがイエスと同じ日、おそらくほぼ同時刻に亡くなつたのは皮肉なことです。イエスの死は必然でしたが、ユダの死はそうではありませんでした。

ペテロがイエスを否認したことを見てきました。ユダがイエスを裏切ったことは、本当にそれほどひどいことだったのでしょうか？一つ確かなことがあります。もしユダが悔い改めてイエスに赦しを請っていたなら、ペテロのように赦しを受けていたはずです。イエスがユダに「わざわい」と言われた理由は、裏切りがイエスの死につながり、結果として自殺に至ることを悟ったユダが、決して自分を赦すことができなくなることを主が知っていたからです。ユダはイエスにしたことのせいで、自らを破滅させてしまいました。彼の悔恨はあまりにも深刻でした。

ユダはイエスが最終的に十字架につけられるとは予想していませんでした。主を裏切って死なせるつもりもありませんでした。ユダはイエスを権力者に引き渡すことで、イエスの王国の到来を早めることができると考えていたようです。ユダは、イエスがダビデのように敵に対してその力を解き放ち、力強く永遠の王国を築くだろうと期待していました。

ユダは、同胞が抱くメシアに関する誤解を共有しており、イエスと共に過ごした年月も彼の考えを改めることはなかった。ならば、イエスの王国の統治を始動させる過程で、少しばかりの金銭を稼いでみたらどうだろうか？この欺瞞と金銭への貪欲こそが、サタンがユダを自滅へと誘い込むために用いたものだった。

ユダが祭司長たちに支払った銀貨30枚を返還しようとしたとき、祭司長たちの偽善が再び露呈しました。彼らは神殿の金庫に「血の代金」を受け取ることはできませんでしたが、偽りの口実でイエスを死刑に処し、その過程で容赦なくイエスを虐待するという、あらゆる悪行に手を染めることはできました。イエスの義なる血を流すことはどうでしょうか。彼らは、イエスを彼らに裏切ったことに対するユダの圧倒的な罪悪感に、自分たちがどう関わっているかなど気にも留めませんでした。「そんなことが私たちに関係あるのですか」と彼らは尋ねました。「この人たちはイスラエルの羊飼いではないのですか？」

そこでユダは出て行って首を吊りました。ルカは使徒行伝1章で、ユダが死んだ後、彼の体は地面に倒れ、裂けて内臓がすべて飛び出したと記しています。これは、縄が切れてユダの体が地面に落ちる前に、彼の体が膨張し始めていたことを示しています。この二つの記述の間には矛盾はありません。

ユダが銀貨30枚を神殿に投げ込んだ後、祭司たちはその金を集め、どうするか検討しました。彼らはユダの名義でその金で陶工の畠を買いました。おそらく、ユダが自殺したことを知る前のことでした。ですから、その畠は二重の意味で「血の畠」と呼ばれました。第一に、銀貨30枚はイエスの裏切り、そして最終的には彼の血の代償であったからです。第二に、ユダが首を吊り、その体が地面に落ちて裂けた後、銀貨がユダ自身の血を流す原因となったからです。

イエスの時代のセム文化では、「血の代償」として支払われた金で土地を購入することは、「ユダの名において」、つまりユダを代表するものとして行われました。祭司たちは、決して自分の名や神殿の名において土地を購入したわけではありません。それはユダの裏切りの代償であり、彼らにとっては彼の土地でした。ルカによる福音書の「ユダは自分の悪事の代償として土地を買った」という記述は、このような状況、特にセム文化においては完全に理にかなっています。マタイが指摘したように、それはすべて聖書の成就でした。

応用：

私たちは皆、大きな過ちを犯します。私たちは皆、それぞれ異なる方法でイエスを否定し、イエスの利益を裏切れます。

ペテロとユダは共に失敗に打ちのめされ、立ち直れる見込みがないと絶望していました。ユダは絶望に屈し、神の恵みによる赦しを信じず、自殺しました。ペテロは焼けつくような痛みに耐え、復活後にイエスが彼に手を差し伸べ、赦しを与える、公に彼を教会の指導者として、そして責任ある立場に復帰させました。

ユダとペテロの唯一の違いは、ユダが自分自身と神を諦めたのに対し、ペテロは希望の糸にしがみついていたことです。

状況が最悪で、希望が消え失せてしまったように思えるとき、できることはただ一つ。耐えることです。イエスは必ず私たちを絶望の淵から救い出してくださいます。イエスだけができます。イエスは私たちの生ける希望であり、決して死ぬことはありません。私たちはあまりにも打ちのめされ、弱り果てているため、もはやイエスに手を差し伸べることができません。

心配しないでください。神は私たちをしっかりと握んでおられます。神は決して私たちを手放したり、罪の中にいる私たちを見捨てたり、見捨てたりすることはありません。私たちはただ待つだけです。神は、ご自身の時に、ご自身の方法で私たちを導いてくださいます。

絶望していますか？頑張ってください。イエス様があなたを導いてくださいます。

深い絶望に陥っている人をご存知ですか？あなたにできる最善のことは、イエス様が彼らを救い出すまで、静かに寄り添い、支え続けることです。

ただそれらを保持し、残りは神がやってくれると信じてください。